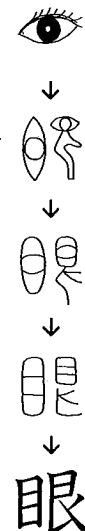


眼

五年
五
成り立ち

11
画数
筆順
「目」
「目」
「目」
「目」
「目」
「目」
「眼」
周恩
ガン・ゲン
まなこ



「見（見）（年21）」が「前を見る」形であるのにに対して、「後ろを見る」形を表した「艮」と、「目」とを組み合わせて作った字です。

「後ろを見る」とは、よく目を働かせることを表したもので。「目」が単なる「目という物」を表した字であるのに対しても、「眼」は、「見る働きをもつた物としての目」を表した字です。例眼力、眼識、眼前（物を見ているその目の前）。また、「大切な所」という意味に使うことがあります。圆主眼、眼目。

「まなこ」は「目な子」ということで、「め」が「ま」に変わり、「の」が「な」になつたものです。「子」は「……」という物の意味で、「目という物」という意味の言葉です。

基

五年
圓数
11
成り立ち



穀物の殻と実とを振り分ける道具を「箕」といいます

が、昔の字は「其」で、音はキです。形が四角なので、

四角の形をした物を表すのに、「其」を使います。

「其」と「土」とを組み合わせて作つた字ですから、

「四角形の土地」という意味の字です。「家を建てるための「土台（基礎と言います）」を表した字です。

土台がしつかりして初めて建物が安定しますので、何事によらず、「物事のより所となるもの」を「基」と言うようになりました。『もと』、または「もとい」と言います。

「旗（年48）」は、四角形の「はた」です。『幕』は幕盤が四角です。白と黒の石を使って遊ぶものです。

△この文章の眼目は、いかに上手に草花を育てるかにあります。どうやつたら、しろうとでもうまく花を咲かくは、先生に叱られないように、まじめに勉強するようになりました。

△「ぼくの先生の眼力はすごいです。ぼくが授業中いたずらをしていると、すぐ見破ってしまいます。だからぼくは、先生に叱られないように、まじめに勉強するようになります。」

△この文章の眼目は、いかに上手に草花を育てるかにあります。どうやつたら、しろうとでもうまく花を咲かせることができるかに主眼をおいています。

△眼識（物の善悪や優劣を見分ける力。「眼力」と同じ意味の言葉です。「あの人本に關する眼識がある」などというふうに、つかいます。）

△眼力（物事を見通す力。物の善悪などを見分ける力のことです。）

△眼目（「主眼」と全く同じ意味です。）

△具眼（眼力、眼識を備えていること。物を見分ける確かな目を持っている、という意味です。「さすがにあの人は具眼の士だ。こうなると予言した事が、ぴたりと的中した」などというふうに、つかいます。）

便い方

△運動でも勉強でも、基本が大事です。基礎がしつかりしていないと、その上に積み重ねて伸びて行くといふことができません。どんな名選手でも、大学者でも、最初は地味な努力を重ねて基本をしつかり身につけたら、偉大になつたのです。

熱話例

△基本（物事の根本となるもの。物事のよりどころとなるもの。「あの選手のプレーは、基本に忠実だからミスが少ない」などというふうに、つかいます。）

△基礎（もともとの意味は、「土台」という意味です。「ビルの基礎工事が始まった」などというのが、これです。また、そこから、広く、物事のよりどころ、根本となるものの、の意味にもつかいます。「基本」と同じ意味です。「基礎をしつかり勉強しておくと、先へ行つてから樂だ」などというふうに、つかいます。）

△基地（物事を行うよりどころとなる土地。根拠地。）

△南極観測の基地が設けられたなどと、つかいます。）

△基金（事業など、ある目的のためのよりどころとなる資金）